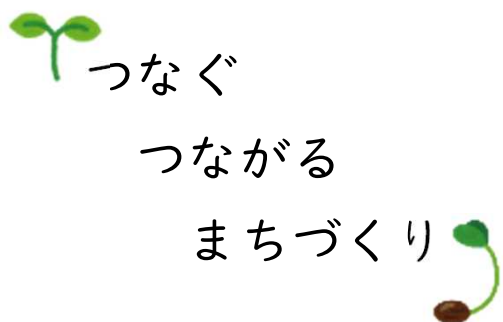




まち協

2023

地域のまちづくり活動ガイドブック 大津市



大津市市民部自治協働課

目 次

まちづくり協議会とは	1
特定非営利活動法人わにまちづくり協議会	2
小野学区まちづくり協議会	4
葛川まちづくり協議会	6
伊香立まちづくり協議会	8
堅田学区まちづくり協議会	10
仰木学区まちづくり協議会	12
坂本学区まちづくり協議会	14
下阪本学区まちづくり協議会	16
滋賀学区まちづくり協議会	18
山中比叡平学区まちづくり協議会	20
藤尾学区まちづくり協議会	22
特定非営利活動法人ながらまちづくり協議会	24
平野学区まちづくり協議会	26
富士見学区まちづくり協議会	28
晴嵐学区まちづくり協議会	30
大石学区まちづくり協議会	32

まちづくり協議会とは

現在、市内では、地域を取り巻く環境の変化等による地域課題の多様化や、地域のまちづくり活動の担い手不足などに対し、地域の各種団体、事業者、個人などが連携・協力してまちづくりに取り組む場として、地域の実情に合わせて「まちづくり協議会」が設立されています。

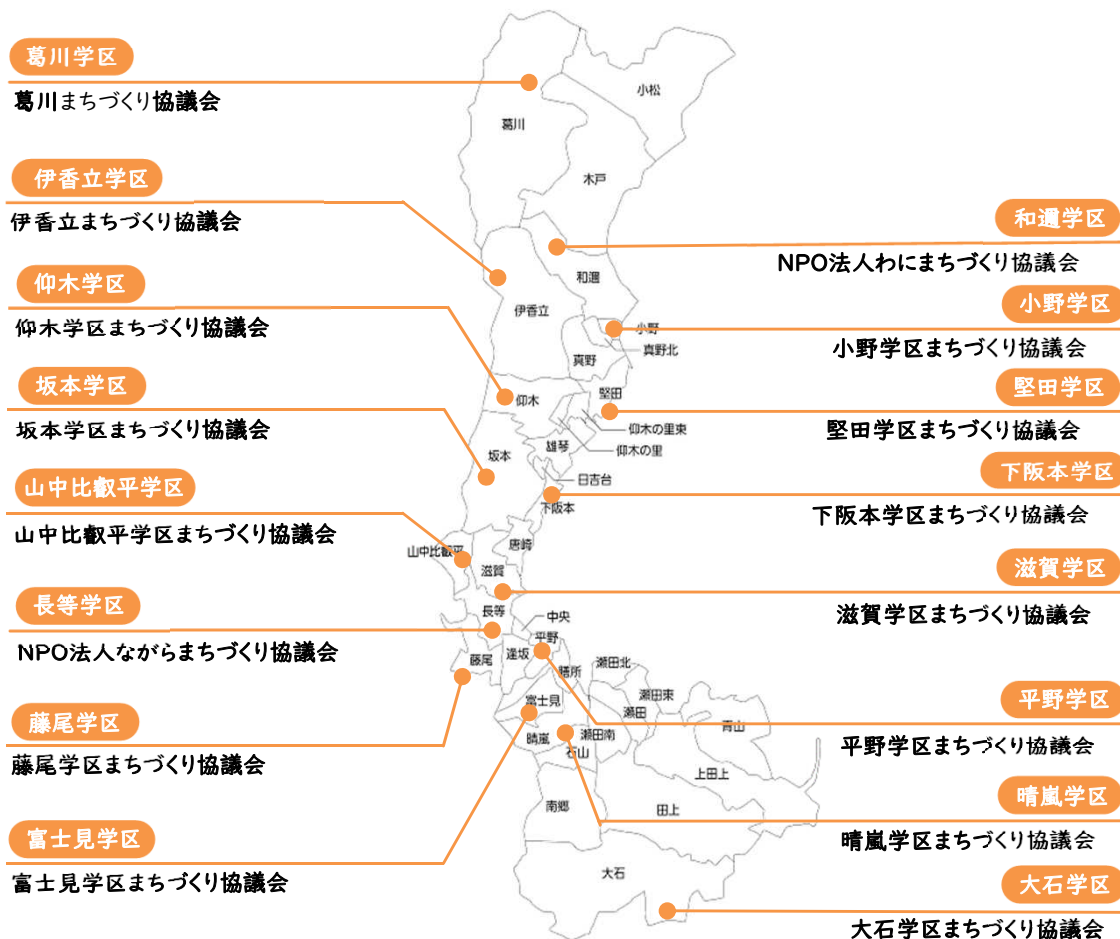
まちづくり協議会は、各種団体や事業者、個人など、地域の多様な主体が課題を共有し、連携・協力してまちづくりに取り組む場、「地域のプラットフォーム」となります。

地域のプラットフォーム

- ・地域の現状や課題、各種団体の活動やまちの将来像を話し合い共有する場
- ・多様な主体が参加し、助け合い支え合いながら、まちづくりを行う場
- ・誰もが主体的にまちづくりに参加し、まちづくりの担い手を育成する場



まちづくり協議会一覧



特定非営利活動法人 わにまちづくり協議会

設立のきっかけ

和邇学区では、自治会加入率が約65%まで減少しており、住民の1/3が非会員のため、既存の自治連合会では学区全体のことを考えていくことに限界がありました。

また、少子高齢化の進行、人口減少をはじめ、身近なところでは自治会役員、各種団体の担い手不足、地域活動に関心を持たない人の増加など、地域の課題は増える一方でした。

このまま何も対策を立てないと災害時等で大きな被害を生む可能性があり、地域として様々な課題に対応できる新しい仕組みを考え、組織を転換していく必要があることからまちづくり協議会の設立を検討しました。

基本情報・組織図

設立年月	令和2年4月
活動地域	和邇小学校区域
まちづくりの 基本方針	【地域の将来像】 ”住み続けたいまち和邇” 【基本方針】 1 防犯・防災に対応できる安心安全なまちづくり 2 人と人とのふれあい溢れる住み続けたいまちづくり 3 健康で自然・歴史・文化豊かなまちづくり
組織図	

活動事例



歴史衣装行列 遣隋使小野妹子祭り

小野妹子の故郷で歴史の町であることにちなみ、毎年11月に「妹子祭り」を開催しています。囃し太鼓とともに遣隋船に乗った歴史衣装行列が町の中を通ります。

また、志賀中学校吹奏楽部による演奏、和邇小学校の児童や地域住民によるステージ発表、露店などで大いに盛り上がりました。



【お断り】表記時刻・配属団体等は変更する場合がございます。ご容赦願います。

コミュニティバスの運行



公共交通機関の大幅減便により“住民によるコミュニティバスの運行”をはじめました。住民目線のルート設定やLINEでの運行情報の配信など、利便性にも配慮し、毎日50名あまりの利用があり、累計利用者数は約2年半で2万2千人を突破しました。

コミュニティバスの運行担当者からは「利用者との交流やありがたいの一言が力になっている」、利用者の方からは「通院や買い物など外出ができています」とまさに**生活を支える存在**になっています。

ミセン事業風景



夏休みカヌー体験



わにあぐり教室

しめ縄作り



クライミング体験

小野学区まちづくり協議会

設立のきっかけ

小野学区は、多くの神社や古墳群があり、古い歴史と伝統を持つ地域であるとともに、小野妹子公園からは、眼下に琵琶湖を一望できるなど、湖と緑に囲まれた落ち着いた地域です。

分譲開始から45年が経過し、人口のピークであった2001年から人口が減少するとともに、高齢化率も48.8%と高く、逆に幼年率は6.4%と低い水準となるなど、大津市の中でも少子高齢化が最も顕著な学区の一つとなっています。

このことから、地域のまちづくりについては課題も多く、自治会運営については活動の継続性が困難な状況にあります。しかし、「まちづくり協議会」を通して、課題に対応するための組織改革や各種団体ごとの類似事業の整理、見直しを進め、協働で取り組むことが、今の課題解決の糸口になるのではないかと考え設立に至りました。

有能な人材も多い地域であり、またコミュニティスクールでの小学校との連携も深いことから、新たな人材や子どもたちが参加できる事業を検討するなど、誰もが健康で、繋がり合い、安心して生き生きと暮らし、このまちに住んでよかったと思えるまちづくりを目指していきます。

基本情報・組織図

設立年月	令和4年4月
活動地域	小野小学校区域
まちづくりの基本方針	【地域の将来像】 みんな元気で 住みつづけたくなるまちづくり 【基本方針】 1 向こう三軒両隣 ひとが繋がるまちづくり 2 安心安全なまちづくり 3 学び ふれあい 支え合う 元気なまちづくり
組織図	

活動事例

小 野っ子&地域が元気でつながりたい！

第2回

「Let me try again」 「やればできる！」

小野学区の子どもたちを対象に、仮装をした子どもたちがコミュニティセンター、6つの自治会館、新設された消防団倉庫を廻り、各会場でお菓子をもらうスタンプラリーを開催しました。

それぞれの施設が**災害時の避難場所**であること、日頃は**地域住民の活動の場**になっていることを楽しみながら学ぶことができました。

減少傾向にある子どもたちと高齢化が進む小野学区住民が、イベントを通じて元気につながり、再び立ち上がるきっかけづくりになりました。



健 康講座～動脈硬化チェック～

琵琶湖大橋病院に協力いただき、近場で手軽に動脈硬化チェックを受けてもらえる場を提供しました。参加者からは近くで検査機会があって良かったという意見が多く寄せられました。



夏 休み スマホで撮ろう、ファミリー写真教室



小学生と保護者を対象に、家族と子どもたちがお互いにカメラマン・モデルとして写真を撮り合い、**講師・写真家の水口泰司氏**による“ちょっとした工夫”でひと味違う写真になることで、その場でコミュニケーションが生まれ、講評の場では参加者全員との交流が図れました。

学区在住の方のキャリアを生かした講座を実施することにより、地域住民にとってコミセンを身近に感じてもらえる場になりました。

葛川まちづくり協議会

設立のきっかけ

葛川学区では保育園がなくなったり、公共交通が減便されたりという現状に対し、学区として非常に危機感を感じていました。以前は、こういった地域の課題に個々に対応していましたが、これからは総合的なまちづくり計画を立て、その計画に基づいたまちづくりをしていかなければという考えになり、住民アンケートを実施してアンケート結果をもとにまちづくり計画を策定しました。まちづくり計画を実行するため平成30年度にまちづくり協議会を設立（市への届出は令和2年度）し、以後、移住促進やカーシェアリングなど様々な事業に取り組んでいます。

基本情報・組織図

設立年月	令和2年7月
活動地域	葛川小学校区域
まちづくりの基本方針	【地域の将来像】 居住人口500人程度の美しい清流と緑に囲まれた、移り住みたい、住み続けたいまちを目標とする。 【基本方針】 1 人口の維持・増加 2 住環境の整備・改善 3 地域性を活かしたまちの活性化
組織図	<pre>graph TD; A[総会] --> B[運営委員会]; B --> C[役員会]; C --> D[事務局]; C --> E[専門部会]; E --> F[里山防災部会]; E --> G[広報部会]; E --> H[移住交流促進部会]; E --> I[特産育成部会]; E --> J[公共交通通信網部会];</pre>

活動事例

葛川学区文化祭事業

コミュニティセンターでの作品展示のほか、新しい試みとして**葛川茅葺きの家**を、お茶席やゲリラライブ、ワークショップ、コーヒーや食品、作品などの販売を行うイベント会場として利用しました。



文化祭初日には日曜日に開催している『葛の里祭り』も同時に開催しました。
入場者数が約200人となる盛況ぶりで、高齢者と若い世代との世代間交流にもなりました。

農 山村の新生活様式サポート事業 (お試し移住受け入れ事業)



今年度は2名の山村生活体験の受け入れを実施しました。
1名は地方移住についての研究論文作成のための取材活動をされ、もう1名は狩猟や鹿の解体、胡桃の実を煮出したインク作り、倒木の伐採や郷土料理の鯖寿司作りなどを体験されました。

受け入れに伴い、住居の掃除や整備なども併せて実施しました。引き続き空き家の調査や修繕等のサポート、空き家の所有者への貸し出しの交渉、移住希望者への対応などを行っています。

令和4年度から令和5年度で6件の移住が決定しました。
(うち3件が家族留学)



伊香立まちづくり協議会

設立のきっかけ

伊香立学区では、住民主体のまちづくりを推進するため、地域住民が集まり、交流するための活動拠点が必要であると考え、まちづくり協議会を設立し、コミュニティセンターの管理運営を行うこととしました。

運動会や文化祭に関しても、これまでは自治連合会が担っていましたが、まちづくり協議会の取り組みとすることで、団体の負担軽減や新たな参画者を募ることが可能であると考えました。

基本情報・組織図

設立年月	令和2年4月
活動地域	伊香立小学校区域
まちづくりの基本方針	【地域の将来像】 ～結ぼう伊香立 つなごう未来へ～ 地域の中で支え合い、安心していきいきと、最期まで住み続けられるまち伊香立 【基本方針】 1 地域住民が安全で安心して暮らせるまちづくり 2 人と人が支えあい思いやりと愛があふれる健やかなまちづくり 3 地域を愛し、地域に根付く人材を育て活力あるまちづくり 4 歴史・文化を継承し、ゆたかな自然環境にあふれるまちづくり
組織図	<pre>graph TD A[自治連合会 自治会] --- B[総会] A --- C[監事] B --- D[運営委員会] C --- D D --- E[事務局] D --- F[地域安全・安心部会] D --- G[ふれあい福祉部会] D --- H[人材育成部会] D --- I[地域振興・環境部会] E --- J[伊香立コミュニティセンター 管理運営]</pre>

活動事例

結 ぼう伊香立・つなごう未来へ



文化祭

「文化祭」と「いかだちマルシェ」を開催しました



文化祭は3日間の期間で、学校園や福祉施設等の皆さんの数多くの作品を展示し、500名を越える多くの方に鑑賞していただきました。

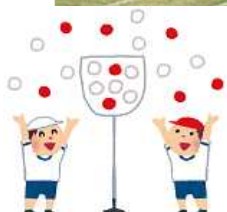
最終日にはダンスや体操、太鼓、バンド演奏などの舞台発表も行い、大いに賑わいました。また、マルシェには約5,500人の方が来場され、学区全体で交流を深める機会になり、とてもアットホームな雰囲気のマルシェになりました。

マルシェ



伊 香立学区市民運動会開催

伊香立各町別対抗で行われ、障害物競争やリレー、玉入れなど、白熱した競技が繰り広げられました。



ま ち協だより

地域のイベントや行事の案内のほか、様々なシーンで活躍されている伊香立の方々を紹介しています。



堅田学区まちづくり協議会

設立のきっかけ

堅田学区は大津市の西北部地域の中心的な地域であり、現在は人口減少の時代ではありますが、小学生が1,000人に迫る状況であり、若い世代の増加が地域の活性化にも結び付くと考えています。

しかし、古くからの琵琶湖岸に沿った歴史あるまち並みを有する地域の高齢化は進んでおり、この地域の少子高齢化や核家族化も進んでいます。そして、空き家も少しずつ増えている状況であります。

そうした背景のもと、まちづくりの課題を集約するために、2年あまり各種団体や自治会と共に討議を重ねた結果、担い手の更新や高齢化などの問題を指摘する意見が多数あり、後継者の育成が課題であることが浮き彫りとなりました。

このようなことから、まちづくりの全体を見渡した組織・事業体系の見直しを各種団体がゆるやかに連携することを検討し、地域の力を充実させ、暮らしに魅力がある持続可能なまちづくりに向けての取り組みや仕組みづくりが必要と考え、まちづくり協議会の設立に至りました。

基本情報・組織図

設立年月	令和5年4月
活動地域	堅田小学校区域
まちづくりの基本方針	【地域の将来像】 堅田の歴史に根付く自然や文化の資源を活かしつつ、地域住民との交流を通じて、活力のあるまちづくりを推進し、地域の繁栄と愛着を育むことができる堅田のまちづくりを目指します。 【基本方針】 1 地域住民が安心・安全に暮らせるまちづくり 2 子育て・教育を通じてのふれあいまちづくり 3 地域住民の健康と福祉を共に考えるまちづくり 4 歴史・文化の伝承と地域振興によるまちづくり
組織図	

活動事例

夢

風船事業（堅田小学校創立150周年記念連携事業）



堅田小学校の150周年を記念し、在校生徒1,002名全員が堅田小学校のグラウンドから各人が書いたメッセージカードを添えた「夢風船」を大空高く放ちました。

色とりどりの夢風船が子どもたちのメッセージと共に青空に飛び立っていきました。

堅 田湖族まつり

堅田湖族まつりは、子どもからお年寄りまでともに楽しめる地域の人々の交流の場として行われている地域の伝統的なまつりです。

各種団体や事業者等が連携し、世代を超えた様々な人々が交流することで、まちの活性化につながっています。



仰木学区まちづくり協議会

設立のきっかけ

比叡山から琵琶湖の西岸へと伸びる雄大な山麓に位置する仰木学区は、立体感のある雄大な棚田が広がり、人と自然が織りなす里山の生活が息づいています。また、多数の社寺や幾つもの重要文化財が点在するとともに、仰木太鼓や仰木小唄など無形文化財も継承されており、恵まれた自然、歴史・文化が豊かな地域です。

地域のまちづくりの現状として、人口減少、少子高齢化、核家族化、青年層の流出が進むなど、地域の現状が変化する中、アンケート調査では、各種団体における担い手不足や、高齢化などの問題を指摘する団体が多く、後継者の育成が課題であることが浮き彫りとなりました。

このような意見を背景に、まちづくり全体を見渡した組織・事業体系を検討し、地域の力を充実させ、暮らしに魅力がある、持続可能なまちづくりに向けての取り組みが必要となっています。

地域の子どもを見守り育てる活動や、高齢者世帯を地域全体で見守る活動、災害時の取り組み、さらには高齢者の社会参加、居場所づくり、世代間交流の取り組みなどについて、情報を共有し、各種団体がゆるやかに連携しつつ、課題解決に取り組むため、「まちづくり協議会」の設立に至りました。

基本情報・組織図

設立年月	令和3年12月
活動地域	仰木小学校区域
まちづくりの基本方針	【地域の将来像】 仰木に息づく自然・文化の資源を活かしつつ、地域及び近隣の住民との交流を通じて、活力のあるまちづくりを推進し、愛着と誇りを抱くことができる仰木のまちづくりを目指す 【基本方針】 1 地域住民が安全で安心して暮らせるまちづくり 2 子育て・教育を通じてのふれあいまちづくり 3 住民にやさしいまちづくり 4 里山・棚田の恵みと歴史・文化を後世に伝えるまちづくり
組織図	

活動事例

おもしろ宇宙 講座



地元出身の元JAXA工学博士の小鍵幸雄氏を講師に招き、宇宙の長い歴史や宇宙のおもしろさ等の話を写真を見ながら聞きました。子どもから高齢者まで参加され、交流もできて充実した講座になりました。



防 災 訓 練

防災倉庫の点検後、クイックテントの設営、消火訓練、かまどベンチを使用して飯盒での炊き出し訓練を行いました。

また、空き缶に米と水を入れ、牛乳パックを燃料にしてご飯を炊く訓練もしました。もしもに備え有意義な訓練になりました。



仰 木 小 学 校 環 境 整 備 事 業

グラウンドの草引き、整備作業を教職員、在校生、保護者と一緒に行いました。きれいになったグラウンドで小学校スポーツデー、学区スポーツフェスティバルが開催されました。



坂本学区まちづくり協議会

設立のきっかけ

令和2年4月1日現在、自治会加入率が46.5%と10年前の平成23年の54.5%と比較すると人口は増加しているにもかかわらず減少傾向にあります。要因としては、地域の枠組みに捉われない世代が増加したことや、ライフスタイルの様変わりが関係しているのではと考えます。

この状況下のもと、地域住民全員が協力できるよう、地域のまちづくりの原点である自主性、自立性、相互理解の下、学区全体の目標や地域活動の目的の共有を図り、持続・継続可能なまちづくりを展開しなければならないと考え、学区単位でのまちづくり協議会の設立に至りました。

「みんなで支え合い、みんなでつくる笑顔のあふれるまち」を地域の将来像として定め、坂本学区の総意を結集し、地域全体の意向を決定する組織としてまちづくり協議会を位置付けます。

比叡山延暦寺、西教寺、日吉大社といった地域資源にある坂本の歴史と文化を活かし、共存共栄を図るとともに、安心安全で住みよい、活力あるまちづくりの構築を目指していきます。

基本情報・組織図

設立年月	令和3年4月
活動地域	坂本小学校区域
まちづくりの基本方針	【地域の将来像】 みんなで支え合い、みんなでつくる笑顔のあふれるまち 【基本方針】 1 安心・安全なまちづくり 2 次世代へつなぐ地域での人材づくり 3 高齢者や子どもがいきいきとしたまちづくり
組織図	

活動事例

夏 休み「子ども教室」開催

小学生の子どもとその保護者を対象に、ものを作る喜びに触れ、創造性や持続性を高める体験ができました。



陶芸教室
竹細工教室
科学教室



夏休みという環境の中で、講師や助手を務める地域のボランティアの方の支援のもと、地域の方々など、様々な触れ合いを通じて、子どもたちの社会性を育む良い経験になりました。

秋 のもみじ祭りの交通整理

広 報紙「瓦版さかもと」の発行

自治会員全戸配布。月1回発行



観光客を暖かく迎える「おもてなし」として、秋のもみじ祭りの交通整理（市観光振興課共催）、日吉参道の除草を実施しました。

下阪本学区まちづくり協議会

設立のきっかけ

下阪本学区は、延暦寺の城下町として、政治的、経済的、軍事的な役割を担う町として、豊かな歴史と文化、また自然にも恵まれたまちです。そのため、京阪神のベッドタウンとして人口が増え続けている反面、少子高齢化や社会の変化等に伴う課題も山積しています。

一つは、自治会加入率の低下です。近年、「地域活動に関心がない」「関心があっても事情があって、まちづくりに参加することができない。」といった方が急増し、地域とのつながりが弱体化してきています。そのため、自治会役員や各種団体の担い手が不足するとともに、固定化、高齢化しており、これまで継続してきたまちづくりの取り組みを継続することが難しくなってきました。

地域として人間関係の希薄化や、高齢福祉活動の維持、災害に強いまちづくりの推進といった課題にどのように向き合うかを検討する中で、これからは各種団体個々が対応するのではなく、横断的に活動することが必要と考え、新しい仕組みとして「まちづくり協議会」を設立するに至りました。

「地域の力、絆を深めて住みよい下阪本」を目指し、住み続けたいまち、持続可能なまちづくりを基本方針として、まちづくりに取り組んでいきます。

基本情報・組織図

設立年月	令和4年4月
活動地域	下阪本小学校区域
まちづくりの基本方針	【地域の将来像】 地域の力 絆深めて 住みよい下阪本 【基本方針】 1 防災に強いまちづくり 2 にぎわいづくり 3 人づくり
組織図	 <pre>graph TD; S[総会] --- A[会計監査]; S --- O[運営委員会]; O --- B[事務局]; B --- C[防犯・防災部会]; B --- D[地域振興部会]; B --- E[教育・福祉部会]; B --- F[広報部会];</pre>

活動事例

下 阪本学区秋まつり

地域住民の交流の場として、下阪本小学校グラウンドで「下阪本学区秋まつり」が開催され、約3,000人の方が参加されました。

ステージでは日吉鼓童の演技、下阪本幼稚園児のダンス、ヨシ笛演奏、ドリームエンジェルのダンス、リスボン島先ジャズコンサートが披露され、子ども神輿の巡回もあり、大変盛り上がりしました。

地域住民による模擬店も復活してキッチンカーを合わせ13のブースが出店し、さらにグラウンドでは遊びの場、体育館では小学校PTAの方々によるフリーマーケットやハンドマッサージで大人も子どもも楽しみました。



み つはまファミリーウォーク

下阪本小学校や下阪本学区体育振興会等と連携しながら、“みつまファミリーウォーク”を企画しました。

当日は雨でファミリーウォークが中止となりましたが、**おさんぽマップ**は地域住民を中心に作成し、**下阪本の魅力を発信する観光マップ**になりました。



防 災講演会



講演「地域における防災対策」
講師：大津市災害ボランティア
センター長 丸山忠司 氏
(大津市社会福祉協議会事務局次長)

広 報活動を開始

ホームページに広報誌や活動報告を掲載しています。

広報誌は年3回、下阪本学区全住民に各戸配布し、全員に周知できるようにしています。



滋賀学区まちづくり協議会

設立のきっかけ

滋賀学区は多数の古墳群や遺跡が存在するほか、近江大津宮跡をはじめとした数々の史跡など豊かな歴史遺産があり、四季を通じて多くの人々が訪れる観光地であるとともに、多数のマンション建設や住宅開発により急激に人口が増加し、市内でも有数の住宅地帯でもあります。

地域のまちづくりにおいては、核家族化や価値観の多様化などにより自治会に加入しない世帯や、活動に参加する人の固定化、役員の担い手不足などが生じてきていることから、自分たちの住むまちの特性や歴史・文化を活かしたまちづくりを進め、地域が抱える課題解決に取り組む必要が出てきました。

このために、自治連合会、自治会、各種団体をはじめ、事業所や個人などを構成員としたまちづくり協議会を設立し、地域の現状や課題を見据え、学区民のニーズに応じたきめ細やかなまちづくりを実現するための活動指針であるまちづくり計画書に基づき、各種団体等が行う事業とまちづくり協議会が行う事業を調整しながら、互いに連携しまちづくりに取り組んでいきます。

基本情報・組織図

設立年月	令和3年12月
活動地域	志賀小学校区域
まちづくりの基本方針と分野別の目標	1 安心・安全なまちづくり ・高齢者と子どもが安心して暮らせる環境づくり ・犯罪のないまちづくり ・交通事故のないまちづくり ・災害の無いまちづくり 2 誰にもやさしいまちづくり ・高齢者にやさしいまちづくり ・子育てのしやすいまちづくり 3 歴史と文化あふれるまちづくり ・歴史遺産と観光地を巡る観光ルートの整備 ・大津山辺の路(仮称)の整備 ・柳が崎湖畔公園の整備・活用 ・地域住民に親しまれる文化祭の開催 4 絆の深まるまちづくり ・自治会(自治連合会)加入促進の取組 ・地域行事の担い手育成 ・住民相互の交流機会の拡充 ・健康づくり ※専門部会については必要に応じて基本方針に応じた部会を設ける

活動事例

滋賀学区夏まつり・ふれあい文化祭

夏
まつり



地域団体によるフードコーナーや駄菓子屋さん、スーパーボールすくい、消防団による消火体験も行いました。

また、クイズコーナーやカブト虫とのふれあいコーナーを設け、人形劇や16ミリの映画大会も催し、『地域で子どもを育てる』理念のもと、一層絆が深まった一日となりました。



ステージ発表はランチ大津京会場、作品展示は滋賀コミュニティセンターの2会場で開催しました。

今年は新しい試みで、大津商業高校放送部の司会でステージ発表が進められ、フィナーレは皇子山中学校吹奏楽部の演奏で幕を閉じました。

両会場をつなぐスタンプラリーも行われ、景品に「オリジナルまち協のマーチ」が配られ、文化あふれるまちづくりを印象づける文化祭になりました。



コミセン会場



ランチ大津京会場



ランチ大津京会場ではマルシェ出店や盆踊り、作品展示会場では園児や地域の方々の力作が並びました。

柳川生き物探検



柳川河口付近で川に入り、たくさんの魚や生き物を採取し、改めて生き物の生態に興味を持つ機会になりました。

おへその教室



今の時勢に合った性教育講座を5回シリーズで開催し、からだにおへそがある意味などを絵本やビデオ、ゲームを交えて親子で学びました。

百人一首の紫式部など大津ゆかりの歌、そのくずし字を読む



くずし字で書かれた百人一首から大津にまつわる地名や人物の歌を抜き出し読み解く講座を開催しました。百人一首の成立や藤原定家と大津の関係、源氏物語が書かれた時代背景などを学び、くずし字を紐解いていくことで歴史あふれる滋賀に愛着を持ってもらうことができました。

山中比叡平学区まちづくり協議会

設立のきっかけ

山中比叡平学区は、中心市街地からみて遠隔地にあることから、公共交通の問題や、高齢化が進むことによる介護問題、生涯教育などについては地域が連携して取り組む必要があります。

比叡平小学校は児童数が少なく、子どもたちが得られる情報量が少なくなりがちであることから、地域ぐるみで学校支援をしていくためにもまちづくり協議会が必要ではないかと考えました。

また、少子高齢化が進む中で、持続可能なまちづくりを進めていくためには、組織の統廃合なども含め、今から将来を見据えた対応が必要であると考え、まちづくり協議会を設立しました。

基本情報・組織図

設立年月	令和2年2月
活動地域	比叡平小学校区域
まちづくりの基本方針	【地域の将来像】 みんなで支え合い、みんなでつくる笑顔のあふれるまち 【基本方針】 1 安心安全なまちづくり 2 高齢者や子どもがいきいきしたまちづくり 3 次世代につなぐ地域人材づくり
組織図	

活動事例

ハ ローウィンの実施



学区の交流事業として、ハロウィンイベントを開催しました。

密にならないよう3日に分けて実施し、地域住民のボランティアの方の熱心な活躍もあり、紙芝居や手品ショー、スタンプラリーなどに子どもたちも積極的に参加してくれました。

家族参加も多く、様々な世代との交流イベントになりました。



コ ミセンマーケット

コミュニティセンター主催の教室や体操、会議等で、一日中人々が訪れ、コミュニティセンターににぎわいがうまれています。

2か月に一回開催をしている「コミセンマーケット」も、回を追うごとに出店数も増え、お店も多様化してきました。



広 報紙「やまひ日和」の発行

コロナ禍で中止が相次いだイベントを少しずつ再開したり、空家空地問題、小学校と連携した学校林の保全活動、また、公共交通対策などに力を入れて取り組んでいます。

このような活動は、毎月の月報発行により、住民へ広く周知しています。



藤尾学区まちづくり協議会

設立のきっかけ

藤尾学区は、国道1号線あるいは西大津バイパスで京都へ向かう交通の要衝ではありますが、二つの幹線道路で地域が分断されており、日常的な地域の連携が難しい学区でもあります。住民の方の通勤先や買い物等の生活圏は京都になっており、中学・高校へ通う生徒以外は暮らしや行政面において大津市から孤立していると感じる人もいます。

隣接する山科区ではマンション建設なども盛んですが、藤尾学区では人口減少、また少子高齢化が進み、子どもの数も減っている状況です。

そのような中、平成27年に公立幼稚園の統廃合問題に直面し、各種団体の代表者で「藤尾幼稚園を考える会」を発足し、保護者や地域の声をまとめ大津市に要望を出した結果、園は閉園となりましたが、私立のこども園が開園しました。

このような取り組みをきっかけとして、今後も、地域の現状や課題を共有し、みんなの意見を地域の声としてまとめ課題を解決していく場が必要と考えまちづくり協議会を設立しました。

藤尾学区の住民がいつも親しく心を通わせ合い、「毎日の暮らしが楽しいまち」「住むことに魅力を感じられるまち」、「安心してくらせるまち」にすることを目標に、各種団体をはじめ、学校園、PTAの皆さんとも連携してまちづくり活動に取り組んでいきたいと考えています。

基本情報・組織図

設立年月	令和3年10月
活動地域	藤尾小学校区域
まちづくりの基本方針	【地域の将来像】 誰もが魅力を感じて住みたくなるまち、毎日を安心して楽しく暮らせるまち 【基本方針】 1 人々の心がふれあい、毎日の暮らしが楽しいまちづくり 2 地域の歴史を大切に、文化・スポーツを育むまちづくり 3 子どもにも高齢者にもやさしく、安全・安心なまちづくり
組織図	

活動事例

ふじおマルシェ開催



地域で活躍されている事業者、学区周辺で人気のお店にご協力をいただき、今年も春、秋に「ふじおマルシェ」を開催しました。

秋の開催は学区文化祭と同時開催とし、子どもから高齢者まで、多くの方に来場いただきました。



憩いの場 藤尾



地域の憩いの場として藤尾奥町の普門寺を会場に「憩いの場藤尾」を開催しました。健康相談ブース、カフェブースを設け、子どもも大人も集える楽しい場所づくりを企画しました。



子ども会議の様子

子どもたちの地域との交流や事業のかかわりを促すため「子ども会議」を設け、子どもたちが「憩いの場」を企画し、会議を開催し、多くの方が来られ賑わいました。

介護のいろは

関心の高い介護について関係各所の方々にご協力いただき「介護のいろは」を開催しました。

講師を招いての講演や介護についての悩みや相談などを話し合う場を設け、参加者同士が自然とコミュニケーションがとれるような場を提供することができました。



特定非営利活動法人 ながらまちづくり協議会

設立のきっかけ

自治会の加入率が低下し、自治会活動に対する担い手不足や財源不足等、様々な課題が発生する中、自治会活動をはじめ、地域の各種団体においても事業を継続することが困難となってきていました。

そんな中、将来の担い手育成に繋がるような、新しい住民が参加できるコミュニティや地域の自主事業に取り組める組織等の必要性を感じました。

現状のまま何も手を打たなければ、現在の活動を維持することすら難しいことから、各種団体や事業者等と連携し、横断的な組織運営の中で効率的に取り組む必要があると考え、まちづくり協議会を設立しました。

基本情報・組織図

設立年月	平成30年6月
活動地域	長等小学校区域
まちづくりの基本方針	【地域の将来像】 地域課題の解決に向けて、また、学区のさらなる発展と活性化に向けて、学区民や各種団体が相互に連携・協力をしながら、3つの基本方針により、まちづくりを行う。 【基本方針】 1 誰しものが明るく元気に安心して暮らせるまちづくり 2 地域住民間の交流により、絆深まるまちづくり 3 地域の資源を活かした、活気と魅力あふれるまちづくり
組織図	<pre>graph TD S[総会] --- P[理事長] S --- D[監事] P --- SL[専務理事] P --- PL[副理事長 (5名)] SL --- SJ[事務局] PL --- R[資源活用・活性化部会] PL --- T[体育・文化部会] PL --- F[福祉・防災部会] PL --- Y[青少年部会] PL --- G[総務・広報・自治会部会]</pre>

活動事例

親子防災体験キャンプの実施

地域の子どもたち、保護者と一緒にテント設営や野外炊事、避難時を想定した体験キャンプを実施しました。

当日は、学区自主防災会から防災グッズ等についての説明を受け、実際に防災無線の使用体験や土嚢づくり、火おこし体験を行い、災害発生時の対応を学習するとともに、防災非常食の試食、試飲等を行いました。

今回の体験キャンプを通して、災害発生時に役立つ知識等の習得につながったとともに、テントでの宿泊体験は、親子の触れ合いの機会となりました。



住民主導で楽しいイベント！公園をまちの中心に



「ながらパークモール構想」を中心に、地域内の公園を利用し各種団体と地域団体等が連携して賑わいと交流を創出するため、「ハロウィン事業」、「ほたるの育成事業」、「子どもたちによる桜植樹」など、様々なイベントを実施しています。

なかでもハロウィン事業は、子どもたちを対象としたイベントで、800人ほどの親子が長等公園や皇子山三角広場で楽しいひと時を過ごしました。



平野学区まちづくり協議会

設立のきっかけ

地域では各種団体の高齢化が進み、組織の存続、活動の継続が困難になってきていることから、個々に活動するのではなく、それぞれの活動を共有する場、横断的に活動を考えていく場が必要となってきました。

そういった背景から、地域内の問題点や課題を抽出するために「ひらの円卓会議」を定期的に行っていました。しかし、課題抽出の議論はできているが、それらの課題を解決するための活動の展開に繋がらなかったことから実行部隊としてまちづくり協議会を設立しました。

基本情報・組織図

設立年月	令和2年5月
活動地域	平野小学校区域
まちづくりの基本方針	【地域の将来像】 多様な人財と環境を生かして、みんなで創る元気で住みよいまち“ひらの” 【基本方針】 1 安全で安心できる平野にしてい 2 高齢者が元気に暮らせる平野にしてい 3 子どもと子育てにやさしい平野にしてい 4 にぎわいのある平野にしてい 5 地域の歴史・文化や自然の景観を誇れる平野にしてい 6 便利で快適な、環境にやさしい平野にしてい 7 多世代が交流する、ふれあいのある平野にしてい 8 いつまでも元気で明るい平野であり続ける
組織図	

活動事例

ひらのまつり

平野学区まちづくり協議会主催で「ひらのまつり」を開催し、延べ4,000人がイベントを楽しみました。

開催にあたっては、地域の学校園、商店街や事業者の方などみんなで協議をして進めることができ、平野学区としてまちづくりの輪が広がったと感じました。



ひらのマップづくりワークショップ開催

平野学区では、平野の魅力や資源を活かして何ができるかを考えるためのワークショップを開催しました。

平野学区出身の大学生の方などに協力いただき、これまで平野で取り組んできた**住民が中心となった活動を共有**したうえで、今後、住民が主体となって何ができるかをテーマにグループで意見交換をしてもらいアイデアを出してもらいました。

平野について学び、思いを巡らせるワークショップとなり、今後は提案してもらったアイデアを参考に、**具体的な取り組み**につなげていければと考えています。



富士見学区まちづくり協議会

設立のきっかけ

富士見学区は、富士見小学校が新設されたのを機に、膳所、晴嵐の両学区から分離、独立し、新学区として発足しました。地域には、東に茶臼山古墳、西に園山古墳群、背には緑深き音羽山系を有する丘陵に広がる住宅地となっており、数年ごとの小規模開発で、新しい自治会が設立されたり、子育て世代の転入によって学校園の園児、児童の減少になんとか歯止めがかかっている状況です。

まちづくりにおいては、住民一体となって開催される「学区ふれあい夏まつり」や、「市民運動会」、各自治会の「ふれあいサロン」、各種団体主催による「寺子屋プロジェクト」「子ども食堂」、「ホテルの里をつくる活動」など、多岐にわたり事業を実施しています。

このような現状の中、新しい自治会と、従来の自治会が混在し、課題も多様化していることから、今こそ、若い人たちの推進力と中高齢者の経験を総動員し、学区全体が一丸となってまちづくりの原点である、「自主性」、「自立性」、「相互理解」、「目的共有」をもとに「住んでよかったと言ってもらえるまちづくり」、「あるべき将来像を実現する故郷づくり」に取り組むことを目指しまちづくり協議会を設立しました。

今後も、「富士見学区明るいまちづくり宣言」の精神を実践する中で、とくにスポーツ、健康づくり、防犯・防災に力を注ぎ、このまちに住んでよかったと言われる住みよい故郷づくりに邁進していきます。

基本情報・組織図

設立年月	令和4年4月
活動地域	富士見小学校区域
まちづくりの基本方針	【地域の将来像】 この町に住んでよかったねといわれる住みよい故郷・富士見 【基本方針】 1 うるおいのあるまちづくり 2 健康でしあわせなまちづくり 3 安全で快適なまちづくり 4 ふれあいと香り高いまちづくり 5 豊かで活力のあるまちづくり
組織図	

活動事例

スポーツフェスティバル



誰もがそれぞれ好きな競技を楽しんでもらえるようにスポーツのイベントとして開催しています。自分のペースで色々な競技を体験し、仲間との会話もはずみ、笑い声や歓声の絶えない賑やかな一日となりました。

また、昼食には模擬店や屋台、キッチンカーも出店し大変好評でした。幅広い世代が一緒にスポーツを楽しみ、地域内の交流も深まる事業となりました。



文化祭&ハロウィンナイト



Happy Halloween!



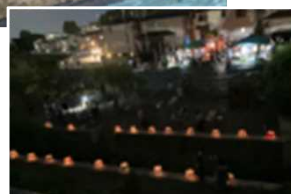
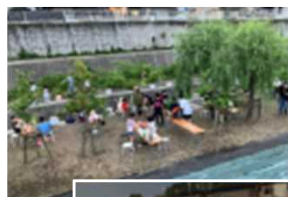
園児、小中学生の作品展や利用者団体の展示会等が行われ、幅広い地域の方々に協力してもらい、温かみのあるイベントとなりました。

かぼちゃの重さ当てクイズ、仮装フォトコンテストなど、地域の方々の楽しむ姿が見られ、屋台や模擬店も好評で、700名を超える来場がありました。

ほたるまつり



会場には学区内の園児に描いてもらった行燈を飾り、幻想的な雰囲気の中で蛍を見ることができ、訪れた人は素敵な夕べを楽しんでいました。例年をはるかに超える来場があり、大盛況となりました。



みんなで元気な富士見学区をつくるために

講演会



「行事から事業へ、役から経営へ、現場づくりからひとづくりへ」

講師：IIHOE代表 川北秀人氏

晴嵐学区まちづくり協議会

設立のきっかけ

大津市の南部の玄関口として、JR石山駅や京阪石山駅を有している晴嵐学区は、京阪神経済圏のベッドタウンとして、戸建住宅やマンションの建築が著しく増加し、それに伴い人口は増加していますが、自治会加入率は低下している状況です。

地域のまちづくりについては、住民や各種団体等と連携したコミュニティ型の組織を設立し、自治連合会を核としてまとまって活動をしています。また、各種団体においても、福祉や防災、交通・防犯といったそれぞれの分野の目的に沿って、様々な活動を実施していますが、課題もあります。

そのため、まずは、自治会に関心をもってもらうためにも、地域の行事や情報を発信し、地域住民が地域の情報を共有することが出来る取り組み、更に、住民グループが気軽に集い、交流し、自然にネットワークが生まれる拠点、住民と行政、住民同士、住民と企業との協働を進め、身近な取り組みから地域社会を創造する拠点づくりが必要となってきました。

そこで、晴嵐学区では、各種団体の現状や課題をお互いに共有し、連携して課題解決に取り組むための組織として、まちづくり協議会を設立するとともに、「これからも住み続けたいまち晴嵐」にしていこうことを目的として、地域の将来像、基本方針等を定めたまちづくり計画書を策定し、学区全体でまちづくりに取り組んでいきます。

基本情報・組織図

設立年月	令和4年4月
活動地域	晴嵐小学校区域
まちづくりの基本方針	【地域の将来像】 これからも住み続けたいまち 晴嵐 【基本方針】 1 地域住民が安全で安心して暮らせるまちづくり 2 地域住民が互いに手をつなぎ支え合うまちづくり 3 地域の力で子どもたちを見守り育てるまちづくり 4 歴史・文化を継承し、活力あるまちづくり
組織図	

活動事例

晴嵐コミュニティ図書室 (略称 晴嵐図書)



当初、1,000冊の本から始まった蔵書は、晴嵐コミュニティ推進委員会（現在は晴嵐学区まちづくり協議会）の助成金で新刊図書を購入、現在は約11,000冊となりました。

子育て支援事業

おはなしポケット (略称 晴嵐図書)



「おはなしポケット」では絵本の読み聞かせや、パネルシアターによるめくり絵、人形劇等を年6回開催しています。

おはなしの時間では大型絵本や紙芝居を年2回開催し、多くの方から喜んでいただいています。



晴嵐文化祭(特別企画)

「せいらん」のこどもたちの絵画展 (児童・園児作品展示会)

学区内にある店舗38か所において、晴嵐学区内の保育園、幼稚園、小学校から選ばれた、園児・児童の作品による絵画展を開催しました。



大石学区まちづくり協議会

設立のきっかけ

大石学区は大津市の最南端に位置し、清流と緑に恵まれた中山間部の静かなまちです。宅地開発で人口が増加した時期もありましたが、近年は人口減少に転じています。

山間部の地域では、少子高齢化、核家族化が著しく進み、過疎による生活活動の低下が生まれてきており、このことが自然災害等への対応力の低下にも繋がっています。また、新興団地内においても、旧地域と同様に高齢化、核家族化が進むとともに、若い世代の流出も増加しています。地域の自治会の組織率も60%と低迷し、地域活動に対する関心の低下と、地域ぐるみの防災活動の弱体化などが問題となっています。

大石学区は面積も広く、地域によって現状や課題など問題点が異なることから、学区全体としてコミュニケーションが図りにくく、個々の自治会が分散し、団結しにくい傾向があります。そこで意識的に共通のイベントや課題を見出し、地域意識を高めていくことが必要であると考え、まちづくり協議会を設立しました。

住んでよかった、住み続けたいまち「大石」を地域の将来像として、地域コミュニティをはじめ、健康・福祉、子ども、教育機関への支援、防災、交通・防犯、文化・環境などの分野における課題を共有し、解決に向けた取り組みを進めていくことが必要であると考えています。

基本情報・組織図

設立年月	令和2年12月
活動地域	大石小学校区域
まちづくりの 基本方針	【地域の将来像】 「緑風、清流と健康の里」住んでよかった、住み続けたい町「大石」 【基本方針】 1 自然と共生し、スポーツで健康で文化豊かなまちづくり 2 地域ぐるみで防犯・防災に対応し、安心して生活できるまちづくり 3 地域を愛し、他地域の人も温かに触れ合える活力あるまちづくり 4 地域の歴史・文化を継承し豊かな自然環境にあふれるまちづくり
組織図	

活動事例

魚 のつかみ取り～魚のさばき方体験

地域の子どもたちが親子で魚のつかみ取りを体験しました。つかんだ魚は内臓を取って串にさし、炭火で焼き食べました。夏休みの楽しい思い出づくりもでき、地域のスタッフとの交流も深まりました。



お 正月 凧揚げ大会



4年生から6年生の小学生を対象に、白い六角の和紙に大津絵を描いて凧を作成し、みんなで凧あげをしました。

子どもたちは、大津絵を描くのは難しいと感じながらも、和紙いっぱい到大津絵を大きく描き上げることができました。

また、**学区の青少年育成学区民会議、参加者の保護者、その他、地域のボランティアの方々の協力**を得て、豚汁やぜんざい、フランクフルト、焼き餅などを作っていただき、みんなで昼食をとることができ、**多世代が交流する機会**となりました。



